

社会資本総合整備計画（水の安全・安心基盤整備）

平成29年6月14日

計画の名称	佐用町における循環のみちの実現（2）			重点計画の該当
計画の期間	平成27年度～平成31年度（5年間）	交付対象	佐用町	
計画の目標				

・集合処理区域の統廃合及び施設の長寿命化による施設改築により汚水処理の効率化を図る。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・佐用処理区に江川地区及び長谷・平福地区（農集排施設）を統合し佐用処理区の処理面積を164.2haから235.4haに拡大する。
- ・上月処理区に早瀬地区（農集排施設）及び力万地区（コミプラ）を統合し上月処理区の処理面積を38haから49haに拡大する。
- ・佐用町の浄化センター1件、マンホールポンプ1式（108箇所）の長寿命化計画を策定し、計画的に施設の改築更新を実施し効率的な施設の維持管理を実施する。
- ・持続的な機能確保のために「ストックマネジメント計画」を策定し具体的な施設管理目標及び長寿命化対策による改築事業を実施する。
- ・効率的な汚水処理が図られるよう整備計画を策定する

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)							
・佐用処理区統合区域実施率 統合完了面積 (ha) / 統合が必要な面積 (ha) (235.4ha)	69.8%	100.0%	-							
・上月処理区統合区域実施率 統合完了面積 (ha) / 統合が必要な面積 (ha) (69.0ha)	55.1%	62.3%	71.0%							
・長寿命化計画策定率 目標年次における長寿命化計画策定施設数 (箇所) / 長寿命化計画を策定すべき施設数 (箇所) (2箇所)	0.0%	100.0%	-							
・ストックマネジメント策定率 目標年次におけるストックマネジメント計画を策定する事業計画数 / スtockマネジメント計画を策定する事業計画数 (1計画)	0.0%	0.0%	100.0%							
・効率的な下水道整備計画策定実施率 効率的な計画の見直しを行った下水道整備計画 / 計画の見直しが必要な下水道整備計画 (1計画)	0.0%	0.0%	100.0%							
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	1,540 百万円	A	1,400 百万円	B	C	140 百万円	D	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C + D)	9.1%

交付対象事業

A1 下水道事業												全体事業費 (百万円)	個別施設設計 画策定状況	備考				
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	事業及び 施設種別	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)							
											H27	H28	H29	H30	H31			
A1-1	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	新設	佐用処理区(汚水管)整備事業	汚水管 φ75mm L=767m	佐用町						32.0		
A1-2	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	新設	佐用処理区(マンホールポンプ場)整備事業	MP場 7箇所	佐用町						160.0		
A2-1	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	新設	上月処理区(汚水管)整備事業	汚水管 φ75～150mm L=4654m	佐用町						319.0		
A2-2	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	新設	上月処理区(マンホールポンプ場)整備事業	MP場 3箇所	佐用町						63.0		
A3	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	改築	佐用町マンホールポンプ場整備事業	長寿命化計画策定・改築(108箇所)	佐用町						332.0	策定	長寿命化
A4	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	改築	三日月浄化センター整備事業	長寿命化計画策定・改築	佐用町						392.0	策定	長寿命化
A7	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	改築	佐用町下水道施設整備事業	ストックマネジメント計画策定・改築	佐用町						92.0	策定中	ストックマネジメント
A8	下水道	一般	佐用町	直接	-	汚水	全種	効率的な汚水処理整備計画策定業務	整備計画策定業務	佐用町						10.0		MICS
											小計 (下水道事業)					1400.0		
											合計					1400.0		

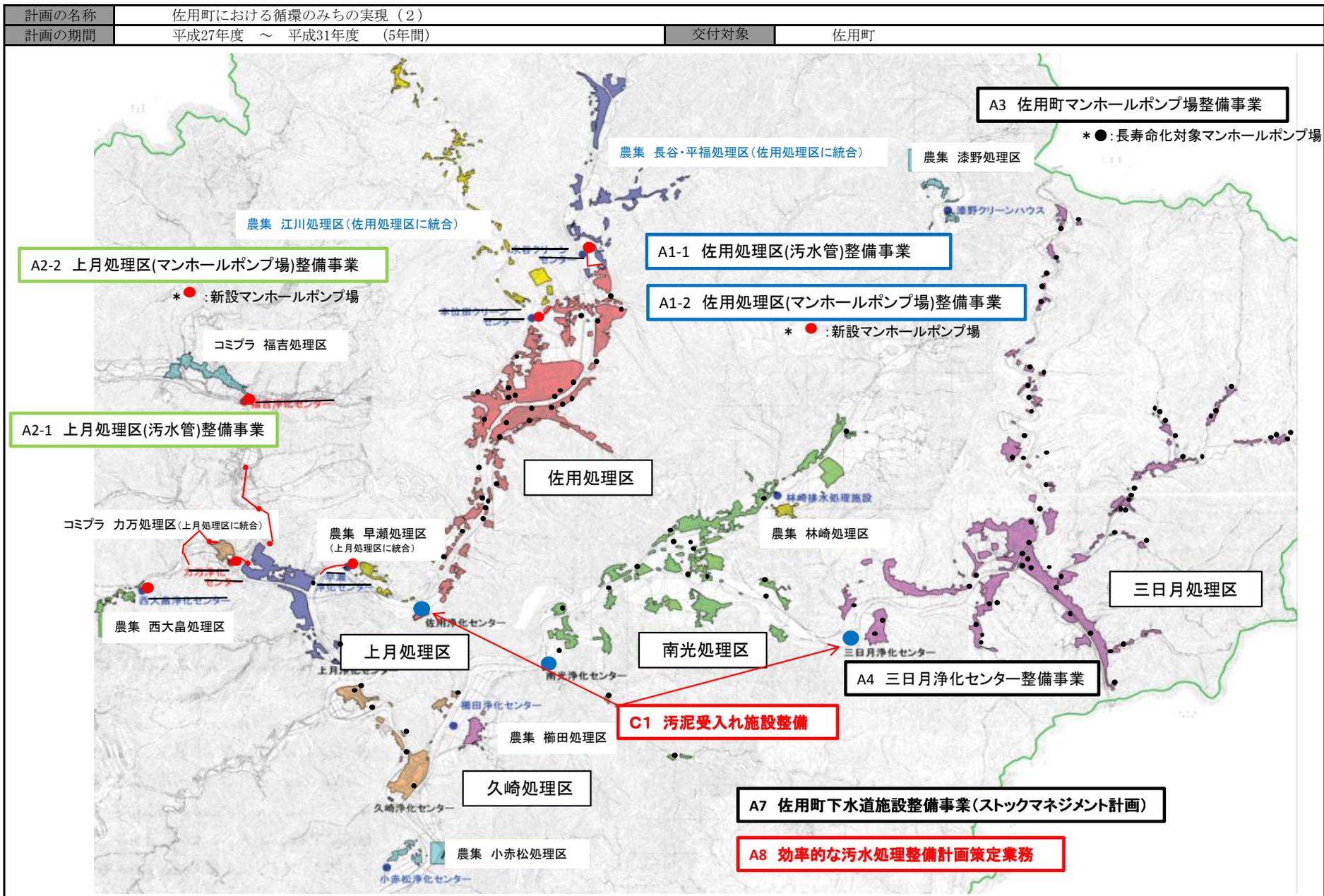
B 関連社会資本整備事業 (該当なし)												全体事業費 (百万円)	個別施設設計 画策定状況	備考				
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	事業及び 施設種別	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)							
											H27	H28	H29	H30	H31			
											合計							

C 効果促進事業												全体事業費 (百万円)	個別施設設計 画策定状況	備考				
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)								
											H27	H28	H29	H30	H31			
C1	下水道	一般	佐用町	直接	-	新設		汚泥受入れ施設整備事業	汚泥受入れ施設建設	佐用町						140		
											合計							

番号 一体的に実施することにより期待される効果
 C1 基幹事業 (A4) (A7) により改築する脱水機と一体施工することにより下水道汚泥以外の汚泥も効率的に処理することが出来る。

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業 (該当なし)												全体事業費 (百万円)	個別施設設計 画策定状況	備考				
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)								
											H27	H28	H29	H30	H31			
											合計							

水の安全・安心基盤整備



社会資本整備総合交付金チェックシート

(水の安全・安心基盤整備(下水道関係))

計画の名称: 佐用町における循環のみちの実現(2) 事業主体名: 佐用町

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性	
1) 上位計画(総合計画、生活排水処理計画、都市計画等)との整合性が確保されている。	○
2) 下水道の諸計画(合流式下水道緊急改善計画等)との整合性が確保されている。	-
3) 関連する諸計画(河川整備計画等)と整合性が確保されている。	-
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえて目標が設定されている。	○
2) 必要性という観点から事業内容、整備箇所の位置づけが高い。	○
II. 整備計画の効果及び効率性	
③目標と定量的指標の整合性	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
④定量的指標の明瞭性	
1) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
⑤目標と事業内容の整合性	
1) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
2) 目標及び事業内容と計画区域等との整合性が確保されている。	○
⑥事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 整備計画の実現可能性	
⑦円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 関連する関係機関等の調整が、図られている。	○
⑧地元の機運	
1) 事業実施に向けた機運がある。	○
2) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	H31
配分額 (a)	35	54			
計画別流用 増△減額 (b)	△ 8	0			
交付額 (c=a+b)	27	54			
前年度からの繰越額 (d)	0	0			
支払済額 (e)	27	32			
翌年度繰越額 (f)	0	22			
うち未契約繰越額 (g)	0	5			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0			
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	9.4%			
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	-				

※ 平成28年度以降の各年度の決算額を記載。